

腕に自信の職人集まれ

3月に三線コンテスト

読んで
広がる
NIE

三線の形の美しさを審査する「三線打

「三線打」は、三線の形の美しさを審査する。三線打コンテストは、三線打コンテスト（県立博物館・美術館主催）が来年3月、同館で開催される。安里進館長らが4日、県庁で会見した。これまで形を評価するコンテストはあったが、音色も含めて評価するのは初めてという。現代の職人による新たな楽器発掘や技術向上などが狙い。

コンテストは同博物館が来

初開催 形と音、美しさ審査



「三線打」コンテストをPRする安里進館長（右から3人目）ら

「三線打」の関連事業。「三線打」は三線職人、「ティールジャ」は手の技、職人芸を意味する。

応募方法は、3月26、27の両日に県立博物館・美術館に三線と応募票、三線立てを提出する。参加資格は県内に住む三線職人。同月28日に審査会がある。

県三線製作事業協同組合によると、県内には約40人の職人がいるという。

会見で、同組合の渡慶次道政理事長は「技量を競うきっかけになるので、多くの職人が結集できる場となればいい」と期待した。

問い合わせは同博物館 ☎098(851)5401。